延喜式内名神大社

生島足島神社便り

ごあいさつ	2	V ₀ 1 49
氏子定期総会/氏子総代・役員/新任の方々	4	Vol.42
平成27年事業計画	5	
初詣/節分追儺祭・鬼やらい豆撒き	6	
真田家ゆかりの生島足島神社	7	
お知らせ/これからの主な祭事・行事/編集後記	8	



摂社(下宮)諏訪神社 1610年(慶長15年)に上田藩主真田信幸(之)公寄進により 再建された御社殿

第42号平成27年4月生島足島神社上田市下之郷中池西701電話0268(38)2755ファクシミリ0268(39)1515公式ホームページURLhttp://ikushimatarushima.jp/

日日お

過ごしのこととお慶び申し上げ

ます。

る季節、 き初め、

氏子の皆様には、

御健勝にて

年

は、 明

御挨拶と致します

玉 は 古

宮司 武藤

春気玲瓏にして、 万物に清朗の気があふれてく 桜や草木の花が咲 美登

神明奉仕ができるということが平 年歳歳のことではありますが、 証でもあります。 を表し衷心より御礼申し上げます。 ることができましたことを、深く敬意 恙なく御奉仕し、 を賜わり、 平 成二十六年度も氏子各位の御協力 年中恒例の諸祭事諸 報本反始の誠を捧げ 日日 行事を 和 年 の σ

加護と御神徳による豊かな稔りを願 豊作 連 0 からの独自の歴史と伝統により春に 社は、 隆 綿と続いております。 昌と氏子崇敬者の繁栄を祈る祭 を 祈 祭祀の場です。 ŋ 秋には収穫を感謝し、 御祭神の 今年も常の 御 総代

祭典 通 存じます。 頭御隆昌のために努めてまい く御協力を仰ぎ、 り氏子の皆様、 、を厳修し、 神社の尊厳護持、 六十数度に亘る恒例 崇敬者の皆様 りたい から広 御 ح 社

総代長さんに語ってもらいました。新しい年の御加護と新年度の希望に向けた抱負を宮司さんと

また、生島足島神社も三月から、新しい年度がスター

しました

午年から未年に暦が改まりました。

に当ります。 り無く無事に納めることができるよう 厳粛かつ盛大に斎行でき、諸行事を滞 く伝えるとともに、 田家と所縁の深い神社であることを広 諸準備を進めてまいらねばなりません。 本年は、 「真田丸」 年平 七年目毎に行われる御柱祭の歳 -成二十 神社規則による総代役員の の放送が始まります。 正月からNHK大河ドラ -八丙申 伝統の式年大祭が (ひのえさる) 真

なられました。 残され御退 発展に寄与し多 もって十一名の 改選期に当たり 大なる御功績 ます。二月末を 神 社 任 を 0)

が、

げ心から感謝いたします。 多年の御奉仕に対し厚く御礼申 し上

ち足りた日日を過ごされますよう祈 夫が荷ない持つ職業に御精励戴き、 と存じます。 終に、 氏子の皆様は御繁忙な時 御健康に御留意され、 節 満 夫 か



御筒粥トお札



1月15日 蟇目鳴弦 東西南北天地に向って矢を放ち、邪気を追い 払います



1月15日 蛙狩神事 ウツギの弓矢を用いるため、その毒により蛙が いなくなるといわれています

意され、

総代長 依田 延嘉

増々御清祥のことと心よりお慶びを申し上げます。 力を賜っております事に心より敬意と感謝を申し上げ 日頃より神社の護持、 陽春の候、 氏子崇敬者の皆様方におかれまして 運営、 及び斯界発展の為に御協 常は

事と思います。 区切を付けられた事に多くの国民は共鳴を感じられた 先の戦争で亡くなられた英霊に祈りを捧げられ 南の島パラオに赴かれ戦後七十年が経ったこの時期に まず、 畏くも天皇皇后両陛下におかれましては遠く 一つの

していただければと思っております。 として七五三祝、結婚式、初宮詣り等多くの人に利用 た写真館の夢うさぎに貸付を致しました。神社写真室 をいたしました斎館別館が完成し、予定しておりま さて、 神社に付いては去る二月十二日に新しく建設

上げ御挨拶と致します。 いただく様に努力を致したいと思っております。 あたり真田家ゆかりの神社として多くの人々に御立寄 大なる御支援をお願い申し上げ又大河ドラマの放映に には御柱総代等の選出をお願いし充分な体制を整えて さらにNHKの大河ドラマ「真田丸」がスタート致し 大祭が滞りなく行われます様、 来年度は、七年目毎に行われる御柱大祭の年に当り、 新幹線の開通等大きな行事が続きますが、 満ちたりた日日を過ごされます様御祈念申し 氏子の皆様におかれましては御健康に御留 氏子崇敬者の皆様の絶 八月

ます。







平成26年12月 斎館別館新築工事中



伊藤正一自治会長を議長に選出し、左記の議事について審 議されました。 多くの方々が出席され、氏子定期総会が開催されました。 三月二十九日(日)、斎館大会議室において午後四時から

からと議決される)以上の議案について質疑応答の後、退任 四、境内清掃出役について十|月二十二日(日)午前六時半 三、平成二十七年度収支予算について 者への感謝状贈呈が行われ、斉藤喜美男氏の答辞がありま 、平成二十六年度収支決算について 一、事業計画について

責任役員の紹介などのあと閉会となりました 前経理部長の鳴滝正夫氏より 決算報告が行われました。

武藤宮司と

依田総代長より

感謝状の贈呈

退任の挨拶を

斉藤喜美男氏

総代長

祭典部長

述べる、前総務部長の

名の ました た、 方々は神社のため、 氏子総代を満期辞任された十三 ご尽力を頂 班

|総代長・斉藤喜美男(前総務部長 代 長・依田 南波 宮下今朝雄 和敬 信夫 (前広報部長・十班 (前祭典部長・六班 (前総代長 ・七班

副

前総代・ 前総代・ 前総代・三班 前総代・二班 五班 六班

南波

茂樹

和行

康夫

(前総代 前総代・九班 前総代・九班 前総代・ · 十班 八班)

真澄

[経理部長・十班]

お疲れさまでした。

平成子中华度 氏子総代。役員

副総代長·経理部長 副総代長·総務部長 延嘉

氏子総代長

正直(十班

昭征(一 敏久(一 信夫(十班) 班

広報 管理部長 祭典部長

> 正彦(三 三 (+ 回

山田 島田

繁幸(二班 正彦(四班 班

新任総代の方々

(敬称

略

新任役員の方々(後列左側から、敬称略)

依田延嘉、総務部長

横山正直、広報部長

以上の皆さん

伊藤正彦、管理部長 木本昭征、



伊藤正二

島田信夫。





岩男

(九班

功一(八班 恒巳(八班



隆之(七班 栄三(六班 嘉一(六班



依田

幸(五班

治明 (五班

斎藤 依田





9班 上野 隆夫 広報部

8班 野村 功一

7班 村山 隆之 総務部

七億円

生島足島神社も便乗し一気に宣

村山

辰夫(九班 隆夫(九班

小宮山幸男(十班

6班 金井 栄三 総務部

6班 宮下 嘉 管理部

成

5班 伊藤 治明 経理部

2班 依田 繁幸 管理部

祭典部

、上田市全体で生島足島神社の大きな看

伝効果を上げ神社運営の向上を図る。

板が6ヶ所にあるが色あせ大分傷んでい

る、真田丸放映に向け修理を検討して行

真田丸放映に向けて上田市の予算に

子・総代全員で協力を要請して行く。

御柱に向かい寄付金六千万円目標に氏

総務部長 藤



総務部

事

何卒、 お願い申し上げます。、御支援御協力を



10班 小宮山幸男 祭典部

9班 村山 辰夫 広報部

四 ţ 六、境内駐車場の事故防止・無断駐車の防止・ 総代・職員の親睦をはかり、旅行、親睦会 参拝者には総代全員が笑顔で挨拶する。 別所線下之郷駅より生島足島神社まで 出来るようにする 行く参道に幟などを置き神社まで誘導

経 理 部 事 業計 阃 経理部長 伊 藤正

会計業務

現金支払いの現金出納帳を記帳し、 手持ちの現金を管理する

日々の収支を日計簿に記帳し、 査を受ける。 月計表等を作成する。 毎月、 役員会にて監

五 四 三

総代(婦人部)手当ての支給、 般会計収支決算書、予算書を作成し、定期総会にて提案する。工二回、会計監査を受け、関係書類等を準備する。 職員奉給の振り込みを行う。

六 週初め、週末に金融機関へ行き、 みを行う。 初穂料入金、 賽銭入金確認、 各種振り込

備品 (飲食物を含む)の手配

総代出役などの際、 祭典及び会合の後、 飲物・弁当の手配を行う。 直会のある場合は、 飲物· 盛り等の手配を行う。

事務備品、作業備品の手配を行う。

三

御柱寄付の準備及び推進

今年度より来年に向けて御柱の広報及び寄付依頼

真田丸放映に対応

四

幟旗及び各種広告掲載

管 理

班

彦

祭典部事 業 計 画 祭典部長 横 Щ 正直 Ŧ 班

祭典参進前の手水の儀、 片付けの手伝い。 警 護、 屝、 柵 注連縄 の開閉他

結婚式の準備、片付け、 浦安の舞の練習時の世話役

年末年始の準備、 注連縄作り等の作事を早めに行う。

五 四 名入れだるま、 しているので対策を考慮する。 山榊(そよご)、空木(ウツギ)、ヨシ等の採取、また採取場所の環境が変化 福だるまの目入れ、 福升の焼印押し等、 事前準備

七九八七六 各部と協力して作業、 結界作り用の青竹取り、 準備をスムーズに行う様にする事。 地主、 持ち主に事前にお願いしておく。

祭事について神職と打ち合わせをする。

注連縄、 紙垂を取り替える。

い部員に早く仕事の内容段取りを覚えてもらう。

部 事 業 計 画 管 理 部 長 木本 昭 征

宮池、水口。 境**内清掃** 排水溝の管理清掃を定期的に行う。

車場の清掃

草刈りの業務、境内、枯れ木、 境内、 支障木の ||参道、御旅所、山宮(各所への除去作業(一部外注あり 年 <u>\</u>

回

境内建造物、 下之郷双葉会の清掃業務あり 屋根の落ち葉などの除去作業

境内整備

宮池西側フェンス通りに牡丹、 子安社周りに草花を移植し環境を良くする。 アジサイの補植をして環境を良くする。

宮池の資質浄化に伴う水利管理、地山宮、御柱用材植林地の手入れ、須生島公園の管理、榊、八重桜の木、 地区水利委員会打合せ。須川、社有地の手入れ。 然川 社有地の手入れ。垂れ柳、その他の手が の手入れ。

ξ 各部との連絡業務

広祭 報部 部 各業務の準備・要 要請有り次第対応する 各イベント準備など。

四

東山より調達する。薪作り「春に準備す 薪作り 春に準備する。 年末年始の準備 (軽トラ十~十五台) 山宮、 東山より調達する。 お焚き上げ用は年末に

部外注

ダルマ売り昜、录己のころを用具の準備。各駐車場の白線引き、雪つき用具の準備。駐車場 ダルマ売り場、 縁起物売り場の準備

道路標識の準備点検設置など 本殿周りの参拝者の対応の準備など

ゼ 資源物の管理

資源物管理は管理部で毎月第三金曜日に当番表により行う。

六

タイヤ交換 車検、点検 **車両の管理** 夏、冬履き替え。(指定販売店)

ţ

各道具、工具、御柱の道具、倉庫、西ハウス管理 お神輿、 整備 ・点検

西第二ハウスの各機具、整理整頓、各種、燃料、 道具、 点検。 ほか整理整頓

八 消防庫管理

防災訓練、神職、ポンプの燃料、凍 職、管理会社
凍結防止、 会社と定期点検を行う。近、その他。

九 在庫表の作成。 備品**の在庫の確認**

†

七他

真田丸の放映に関わる準備、他-一、御柱大祭(平成二十八年四月 斎館と別館の整備に関わる事項-、斎館と別館 他月項 八日) と寄付

+



班

広 報 部 事 ·業計 画

広報部長 島田信夫 (十班

神社境内における事業」について

|「神社内での記録写真の撮影と編集保存整理 季節ごと、神社大型看板の差し替え設置

- 、神社の祭典・行事、及び境内の整備などの記録写 影すると失敗が少ない)。 回限りの事であり、一人で撮影するより二人で撮 真…主に神社のカメラを使用する。(祭事等は
- 写真データの整理・保存…パソコンでデータ整理 ダに名前を付けてファイルで整理する)に保存する ことによりデータを読み出しやすくする。 USBメモリ(年ごとに仕分けし、月日ごとにフォル

三「神社便りの発行」について

- 年間、二回(四~五月、十~十一月)見開きページで
- 五〇〇部印刷…下之郷自治会の各戸へ班長経 由で配付。

「神社祭事・イベント」 「許可書の手配」 について リサーチパーク管理事務所へ三十五部配付

祇園祭の道路使用許可申請書の提出(警察) 対揖・参進(席札の貼付け確認)時の整列・誘導

お参りの後、

御神酒を頂く

- 祇園祭子供神輿集合写真撮影…学年別に撮影
- 煙火の打ち上げ依頼、消防署への届出書の作成・提出 PTA役員を経由し、各自へ配付。

五「福だるま頒布」について

- 福だるまと招き猫の在庫確認と新規発注、早期
- 名入れだるまの受注・仕入れ。目入れと清祓い
- 福だるま・招き猫の頒布一月一日から十五日まで。 ダルマ会計簿作成

六「メディア・マスコミ関係」について

神社ホームページ(HP)の更新や追加事項。新聞 社などへ情報提供

今年の幸せを願って お参りする方々

- 真田丸テレビ放映に関連した神社(諏訪社)の宣伝。
- 平成二十八年の御柱大祭に関連した情報発信な

候の中にもかかわらず二年参りと初詣に来社され た参拝者は今年の幸せを願っていた。 参拝者も午前一 元旦の天候も曇り空でしたが、初詣に来られ 昨年十二月晦日は寒風と時々吹雪となった悪天 一時頃には人影も少なくなった。

神池の外周道路沿いを下之郷交差点まで続く長 列ができた。 三が日、 参拝の列は御神橋から東鳥居を経て

参道まで満車になる状況だった。 今年の駐車場は報恩殿の跡地も使われたが、

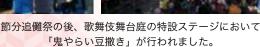
多かった。 が開催され、 月十五日まで縁起物の福だるま・ 昨年より買い求めるお客さんが 招き猫 \mathcal{O}

市









斎行されました。 会員年度表彰式が 節分追儺祭及び





節分追儺祭・鬼やらい豆

平日にもかかわらず、 らい豆撒き」 御本社に於いて節分追儺祭が斎行されました。 は歌舞伎舞台前庭の特設ステージから 会員年度表彰が行われ、 参列招待者六十名ほどが裃姿で参拝。 を伸ばし、 成二十七年二月三日 福豆を求めておりました。 が一斉に始まりました。 大勢の善男善女が両 午後三時三十分から 火 午後一 一時から 永年 今年も 鬼や



生島足島神社

ている。戦国時代には武田氏や真田氏が崇敬を寄せ、江戸時 代には歴代上田藩主の厚い庇護を受けてきた由緒ある神社 た延喜式に「生嶋足嶋神社二座名神大社」として記載され 生島足島神社の歴史は非常に古く、平安時代に制定され

諏訪社本殿(県宝)が建てられている。 (昭和十六年)が北面して建ち、それに正対するように摂社 神社境内には、池に囲まれた神の上に、権現造りの本社

期から十九世紀初期の時期に覆屋としての本殿が建てられ、 屋内の内殿となった。 本殿内殿は、かつては屋外に建てられていたが、十八世紀後

て、その伝承を受け継ぐ御籠祭と呼ばれる神事が現在も行 間が外陣(げじん)となっている。外陣は、諏訪大神が半年間、 生島・足島両神にご飯(粥)を炊いて奉ったところと伝えられ (当時は杮葺)です。内部は、向かって左側! (側面) 柱間二間 (3.10m)で屋根は切妻造りの厚板張り 現在の内殿の規模は桁行(正面)柱間三間(4.82m)梁行 一間が内陣、右側

当初は窓であったと推定される。当初は向拝(ごはい)が存在 育む大地を神として崇める最も古い神社の形式を伝えるも 内陣の土間が本神社の御神体とされている。これは、万物を 潜り戸がある。正面中央柱間には片引き戸の戸口があるが、 たと推定される。床は、内陣・外陣とも土間となっており、 内陣の周囲は大部分が板壁で内外陣境に片引き板戸の

色した跡が残る。軸部は、粽(ちまき)・礎盤(そばん)・大瓶束 を丁寧に削り磨いている。外面した部材の一部には朱などで彩 築年代は、天文年間(「五一二~ | 五五五)頃と推定される。 (たいへいづか)等を用いた室町時代の様式で、その特徴から建 主要な部材は欅材で、表面は手斧(ちょうな)仕上げの上



あったことなども記されている。 **の寄進**により再建された。また、棟札には本殿の部材を 本の木からすべて作ったこと、大工棟梁が宮坂勘四郎で この本殿は、慶長十五(三二○)年に上田藩主真田信之

長野県宝生

島

及び門 神

り替えによるものであるが、当初からこのような塗装(朱 全体に彩色を施している。現在の塗装は昭和十六年の塗 漆塗、胡粉(こふん)塗など)がされていたと考えられる。 流造で、屋根は銅板葺(元こけら葺)である。社殿の軸部は 本殿の全体の形式は正面の柱間が二.八mの規模の一間社

現している。 いる点など、この時代に中央で盛んになった桃山様式を表 点、脇障子の上部に熨斗(のし)結びの透し彫りを入れて また)(表側に竜、背面に雲を彫る)、扉の上方にある蟇股 特徴である。向拝(ごはい)の頭貫上部にある蟇股(かえる (雲・麒麟(きりん)に立体的で精巧な彫刻が施されている この本殿は、全体の建ちが高く、軽快な感じがする点が

東南から望むご本社

門は、当初は内部に床を張った諏訪系の神社にみられる 確認でき、この形式の門としては県内で一番古い 「御門屋(みかどや)」の形式をとっていたことが痕跡から なお本殿手前にある門も同時期の建築と考えられる。







「門」(県宝)







蟇股 ⑤キリン

喜左衛門(いずれも信幸の家臣)から申しわ の本願宮の社殿造営の費用を捻出する土地 願宮を祀る境内社がある。上田城主の真田 たす」と信幸が慶長十三年(二六〇八)、神主の かった費用の支出明細を奉行(役人)に提出 として、社側に預けおくから、毎年修理にか た朱印状である。 信幸は「定書」をして神主の工藤長七に宛て 工藤長七郎に申し渡した朱印状。 すること。なお細かいことは木村土佐守・石川 生島足島神社の境内には神池の外側に本

真向かいに摂社(本社に関係のある神を祀る (社) 諏訪社本殿を再建し寄進している なお信幸はこの二年後に、生島足島神社の 本願宮とは、現在の荒魂社とされる。

注

「拾五貫文を下之郷明神(生島足島神社)

ちんだからの発 福立实 上上北北京 交 み加さても かどろん 川村等好

正十四年(三五八六)ころのものである。

この文書は、真田昌幸が上田城築城後の、

社の大切な伝統行事になっている。 でも毎年一月八日に行われている「御門祭 を書いた厚板)も柳の木で新調されたという。今 板(生島・足島・諏訪上下大明神など十七の神名 柳の木で建て替えられ、また神門に掲げる神名 鳥居と神門が建てられたという。この神門は昔は あった。後世(享保四年)修造の際、東参道を設け 塗の鳥居と神門があるが、往古は西参道だけで

今でも毎年一月八日に行われている 「御門祭」

でいまって

注

ように。」と真田信幸(信之)が六供僧(生島足島 進するから、ますます祈念勤行(ごんぎょう)する 神社に仕える僧)や神官に申し伝えた寄進状。 「これまでのように下之郷社領四十貫文を寄

の事件であった。その翌年上田城主となった真田 の合戦は、真田氏一族にとって命運を分ける最大 信幸が、生島足島神社に捧げた貴重な寄進状で この文書の前年、慶長五年(三八○○)の関ヶ原

境内に案内板を設置いたしました。

1609年「金1両=銀60匁= 銭4貫文(4000文)

江戸初期から中期にかけての 金1両(4000文)は10万円に相 当する。当時は三貨(金貨、銀 貨、銭貨)は現代の円ドル相場の ように変動相場制でしたので、江 戸と大坂では毎日相場が立ち、 取引が行われていた。幕府も市 場相場に任せていたようです。





海 振 Z み 憲

 \mathcal{O}

編集後記

で伐る事を許可した朱印状である。

生島足島神社には、東西両参道の入り口に朱

村上村一帯)塩田筋(上田市塩田平一帯)の各郷村

、坂木筋(埴科郡坂城町一帯)庄内筋(更級郡 真田昌幸は生島足島神社で使用する柳の木 可する。」というもの。

社が必要であるときは、異議なく切ることを許

「何んの郷村であっても、柳の木を生島足島神

八幡社・荒魂社・秋葉社方面などを 知らせる看板を設置しました。



▲真田信幸(信之)が寄進した摂社「諏訪社」 がある方向を案内する看板を設置



▲順路の案内看板



ども ど 法

0

H 日 日

り

0) 念

四 日

記 お祝

五月

日

 \mathbb{H}

祝日には国旗を掲げて

1

しましょう!!

替

休

日 日

> 五月 五月 五月

六日 五日

永 火 月

白

月

宮池の歩道沿いへ 真田ゆかりの神社 を知らせる幟旗





▲駐車場の境内案内掲示版構に真田ゆかり の神社を知らせる看板を設置しました。





七月 七月 六月 六月 三十 干

日

(夏越のは

成え

天王降祭

御歳代種蒔神事並祇園

七月二 十 十六日 七 $\bar{\mathsf{H}}$ 日

並祇園祭 六月の大祓式 ちがつのつきなみさい

御歳代植苗祭 しものごうみかしらししまいほうのうほごこくさい 祇園祭 子供神輿・浦安の舞ぎおんさい(ぎおんまつり) 卜之郷三頭獅子舞奉納奉告祭 (御田植神事)

六月

H

御歳代田作り 六月月次祭 六月月次祭

六月

十五

これからの主な祭事・行事

れない方が過半数です。方々が、新しい総代に 一力を心よりお願い申し上げます。 氏子崇敬者皆様の温 氏子総代を満期辞任さ 新しい総代に入 か i j れれ 、御支援、 代 た + わ ŋ 名 御 慣の

(広報部)